

平成 30 年 4 月 27 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02381

研究課題名(和文) 文芸事象の歴史研究 論争文学と虚構文学の歴史理論の構築をめざす境界領域研究

研究課題名(英文) Historical Studies of literary affairs - boundary area studies that aim to construct a historical theory of polemic and fictional literature

研究代表者

野呂 康 (Noro, Yasushi)

岡山大学・全学教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：70468817

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、論争文学の虚構性と歴史性の両方に着目し、論争文書を歴史史料として読みつつ歴史認識を深め、その現代的な価値を見いだすことであった。虚構としての文学を分析する手法を用いながら、流通とメディアに焦点をあて、歴史社会学及び社会史が着目してきたテキストの社会性を定義する境界領域研究である。それゆえ政治史、文学史、社会史など、既存の複数の学問領域の研究者と共同で研究を進めた。その成果は研究期間内に行われた複数回の発表、最終年度に実施された国際シンポジウムなどの形で、一般に公開されている。

研究成果の概要(英文)：Our study aims to find the value of polemic texts as documents of history. We essayed to discover fictional and historical aspects of the polemic literature. Using the method of analysing fictions and focusing on circulation of printing matters and fonction of media, we also attempted to define the social nature of texts that historical sociology and social history have focused on. So we called our studies boundary area studies. Therefore, he collaborated with researchers in several existing disciplines such as political history, literary history, social history, etc. The results are open to the public in the form of multiple communications made during the research period, international symposiums conducted in the final year, and so on.

研究分野：論争文学研究

キーワード：論争文学 ジャンセニスム アンシアン・レジーム 虚構文学

## 1. 研究開始当初の背景

近世フランス社会においては、王権によって、書籍には必ず事前出版許可を求めるよう定めた事前検閲制度が確立されていた。このような王権の統制には、17世紀の半ば頃から、宗教文書の出版統制が含まれるようになっていた。宗教文書は元来、王権ではなく教皇を頂点とする教権による判断が重視されていたにもかかわらず、王権は宗教書の統制にまでその影響を及ぼそうとしていたと考えられる。結果として、世俗の権力が宗教事象の判定機関として権威を確立する契機が、出版統制には孕まれていたのである。このような事態に対して、「ジャンセニスト」は危機意識を抱いていた。ところで、幾ら宗教上の論争とはいえ、それまでの一般的な手段であった教会での説教などでは、十分な影響力を行使することが出来なくなっていた。ここに、当時の最大のメディアとしての書物の流通と、それを享受する読者層あるいは公衆の拡大、そして宗教事象や論争を可視化する作家の役割が劇的に変化した理由がある。したがって、「ジャンセニスム」運動を、その論争文書に限定しつつ研究するということ自体、その実、「ジャンセニスム」から離れ、当時のメディアそのものが内包する数々の現象を総体的に捉えるという、必然的に、極めて広範な研究に接合されざるを得ないものである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、論争文学の虚構性と歴史性の両方に着目し、論争文書を歴史史料として読みつつ歴史認識を深め、その現代的な価値を見いだすことにある。論争文書では、論敵への攻撃、読者の説得、流通システムへの配慮などに、他の文学テキストにはない著しい特徴が見られる。複数の論争陣営が対立する場合、どの陣営の主張が妥当性が高いかを判定するには、執筆、読者、流通システムと

いう、テキストに内在・外在する諸要素の力関係を考慮する必要がある。したがって本研究は、虚構としての文学を分析する手法を用いながら、流通とメディアに焦点をあて、歴史社会学及び社会史が着目してきたテキストの社会性を定義する境界領域研究となる。

## 3. 研究の方法

本研究代表者はこれまで、17世紀半ば、フランスにおける内戦「フロンド」期に生産された多種多様な文書群「マザリナード」の分析から論争文書の扱いについて学んできた。「マザリナード」と同時期に生産された、初期「ジャンセニスム」の論争文書を扱う上で、こうしたノウハウと視点とは大いに活用すべきものである。まずは、「ジャンセニスム」論争の過程で生産された文書を総て列挙し、年代順にまとめ目録化した。研究史上、1640年代の「ジャンセニスム論争」の文書が網羅されたことはない。次いで、完成した目録を用いて、国内外の研究者との共同研究に着手した。年代順の目録だけでなく、テーマや論争系統の調査に資するような工夫が必要とされた。この過程で、より広いカテゴリーである論争研究を中心に据え、「ジャンセニスム」はあくまで事例研究の一つとして取り組むことになった。すなわち、17世紀フランスに限定することなく、他の世紀に関しても論争の発生する場を共同で研究し知識を深める必要を感じた。共同研究の成果をまとめるにあたり、それぞれの研究者の専門領域(社会学、歴史社会学、文学、文献学)の知識を持ち寄り、シンポジウムという形で意見交換および知識の普及に努めた。

## 4. 研究成果

研究の初期段階でまとめた「ジャンセニスム論争」に関わる論争文献や印刷物、パスカル関連文書を用いて、主にフランスの研究者との研究交流に努めた。海外からの研究者の

招聘、複数の講演会の企画、現地での資料調査と研究交流、日本内外での研究発表やゼミナール参加など、本研究では多角的な側面から研究成果の受信と発信に努めた。また常にそうして得られた知識の一般への還元について意識していた。成果の多くは、以下に掲載する発表や論文、著作、共著などの形で発表されている。

また本研究終了後、その成果を問うべくパリ第3大学で開催されるシンポジウムに参加し発表することを予定している。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

野呂康、パスカル学の現在 アラン・カンチオン、近代文献学と文学の自明性への眼差し 附アラン・カンチオン「パスカル - の - 賭け 異文混交の受難」(講演翻訳)、岡山大学ヨーロッパ言語文化研究会編『ヨーロッパ言語文化研究』、査読有、no.36、2017、pp.19-55

Yasushi NORO, L'image de feu Saint-Cyran - un autre regard sur la bibliographie littéraire, *Revue les Dossiers du GRIHL* (電子ジャーナル), 査読無、2016: <http://dossiersgrihl.revues.org>

野呂康、1640年代の出版業界とジャンセニスム論争(その二)、査読有、岡山大学ヨーロッパ言語文化研究会『ヨーロッパ言語文化研究』査読有、no.35、2016、pp.1-15

野呂康、1640年代の出版業界とジャンセニスム論争(その一)、国際センター、岡山大学教育開発センター、岡山大学言語教育センター、岡山大学キャリア開発センター編『大学教育研究』、査読有、No.11、2015、

pp.33-42

[学会発表](計6件)

Yasushi NORO, Autorités de derrière : autorités dans la polémique autour de *De la Fréquente communion* d'Antoine Arnauld, 文芸事象の歴史研究会、2017年9月23日、「アンスティチュ・フランセ九州(福岡)」

野呂康、パラテキストの機能 アントワヌ・アルノ『頻繁なる聖体拝領について』における不可視の論争、岡山大学文学部ヨーロッパ言語文化研究会、2017年7月1日、「岡山大学(岡山)」

野呂康、論争と論争書の出版・販売 ジャンセニスムと出版、岡山大学文学部ヨーロッパ言語文化研究会、2015年6月13日、「岡山大学(岡山)」

[図書](計3件)

Yasushi Noro, *Une Vie à la trace - Amable Bourzeis, écrivain(1606-1672)*, Paris, Classiques Garnier, 2018, 437

文芸事象の歴史研究会編(野呂康、中畑、嶋中、辻川、杉浦、森本)『GRIHL 文学の使い方をめぐる日仏の対話』東京、吉田書店、2017、366(22)

Yasushi NORO, *Affaire d'obéissance in GRIHL* (共編), *Ecriture et Action -XVII<sup>e</sup>-XIX<sup>e</sup> siècles, une enquête collective*, Édition EHESS, 2016, col.< En temps et lieux >, 290

[その他]

ホームページ等

Le site personnel de Yasushi NORO

<http://yasushinoro.web.fc2.com/index.html>

<http://grihl.ehess.fr//index.php?424>

Dossiers Grihl

<https://journals.openedition.org/dossiersgrihl/6769>

岡山大学ヨーロッパ言語文化研究

<http://webcatplus.nii.ac.jp/webcatplus/details/creator/790787.html>

文芸事象の歴史研究会

<http://yasushinoro.web.fc2.com/organisation170923.html>

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

野呂 康 (NORO, Yasushi)

岡山大学・全学教育学生支援機構基幹教育センター・准教授

研究者番号：70468817